

## スペイン語ガイドブック

### 接続法過去

#### ■ 1 接続法過去・規則変化

ar 動詞には-ara-、er 動詞・ir 動詞には-iera-という延長部があり、これが接続法過去の語幹を形成します。人称語尾はすべてに共通して、ゼロ、-s、ゼロ、-mos、-s、-n です。延長部はちょうど直説法点過去三人称複数形から ron を取り除いてそれを ra に変えた形と同じです。(cantaron、comieron、vivieron)。

cantaron - ron => canta + ra => cantara

強勢は移動せずに常に延長部にあります。一人称複数でアクセント符号をつけなくてはなりません。

cantar 「歌う」	
cant-ara	cant-ára-mos
cant-ara-s	cant-ara-is
cant-ara	cant-ara-n

comer 「食べる」	
com-iera	com-iéra-mos
com-iera-s	com-iera-is
com-iera	com-iera-n

vivir 「生きる」	
viv-iera	viv-iéra-mos
viv-iera-s	viv-iera-is
viv-iera	viv-iera-n

## ■ 2 接続法過去の意味

直説法の点過去、線過去、過去未来に対応します。下の文で *llegara* が接続法過去形になっているのは、主節に *no creí* という過去形が使われているためです。

- *Creí que [llegó / llegaba / llegaría] él.* // 私は彼が着いた[着く、着くだろう]と思った。
- *No creí que llegara él.* // 私は彼が着いた[着く、着くだろう]とは思わなかった。
- *Juan me dijo que me llamaría; eso hizo que me pasara el domingo pendiente del teléfono.* // フアンは私に電話すると言ったので、私は日曜日の一日中電話を待っていないではならなかった。
- *Todo el mundo me aconsejaba que viviera como una española más.* // みんな私がスペイン人と同じように生活すればよいと言っていた。

☆なお、*querer* の接続法過去形 *quisiera* には「…したいのですが」という意味の婉曲用法があります。

- *Quisiera trabajar con usted.* // 私はあなたと一緒に仕事ができればと思います。

## ■ 3 接続法過去・不規則変化

不規則変化の延長部もすべて直説法点過去・三人称複数形と同じ形です。

<b>dormir</b> 「眠る」 → <i>durmieron</i>	
<i>durm-iera</i>	<i>durm-iéra-mos</i>
<i>durm-iera-s</i>	<i>durm-iéra-is</i>
<i>durm-iera</i>	<i>durm-iera-n</i>

<b>tener</b> 「持つ」 →tuvieron	
tuv-iera	tuv-íera-mos
tuv-iera-s	tuv-iera-is
tuv-iera	tuv-iera-n

#### ■ 4 接続法過去完了の変化

接続法過去完了は「haber の接続法過去＋過去分詞」で作ります。haber の接続法過去は不規則なので注意しましょう。

cantar	「歌う」
hubiera cantado	hubiéramos cantado
hubieras cantado	hubierais cantado
hubiera cantado	hubieran cantado

#### ■ 5 接続法過去完了の意味

直説法の過去完了と過去未来完了に対応します。

- Creí que [había llegado / habría llegado] él. // 私は彼が着いていた [着いているだろう]と思った。
- No creí que **hubiera llegado** él. // 私は彼が着いていた [着いているだろう]とは思わなかった。

#### ■ 6 接続法過去 se 形

接続法過去には語尾に se が現れる別の形がある。これを se 形と呼ぶ。一方、先に習った接続法過去は ra 形と呼ばれる。se 形は ra 形から簡単に作ることができる。すなわち、ra 形のすべての活用形の語尾の ra の部分を se にすればよい。

cantar 「歌う」	
cant-ase	cant-áse-mos
cant-ase-s	cant-ase-is
cant-ase	cant-ase-n

comer 「食べる」	
com-iese	com-iése-mos
com-iese-s	com-iese-is
com-iese	com-iese-n

vivir 「生きる」	
viv-iese	viv-iése-mos
viv-iese-s	viv-iese-is
viv-iese	viv-iese-n

## ■ 7 接続法過去 se 形の用法

接続法過去 se 形の用法は ra 形とほとんど違いはありません<sup>1</sup>。

- Me gustaría que llevaras a cabo tu propósito de estudiar japonés. // 私は君が日本語を学ぶという目的を達成してもらいたいと思う。
- Desearía que me enseñase usted trajes de invierno. // 冬服を見せていただきたいのですが。◇ **desear** 望む ; **enseñar** 見せる ; **traje** 服 ; **invierno** 冬

<sup>1</sup> 接続法過去 ra 形と se 形の違い : ra 形は quisiera などの婉曲用法で使われます。条件文の帰結節でも、過去未来形の代わりに ra 形が使われることがあります。また、ラテンアメリカでよく直説法過去完了の意味で使われることがあります。それ以外は ra 形も se 形も同じ働きをします。

## ■ 8 接続法における時制の一致

例(1)と例(2)では主節の過去未来という過去の時制に一致して、従属節で接続法の過去形が用いられています。しかし、これは文法上の時制の一致であり、*lleves* と *enseñase* の意味は過去ではなく、それぞれ、「日本語を勉強するという目的を実現すること」、「冬物の服を見せること」という未来のことを示しています。例(3)では、主節は現在形ですが、従属節は過去のことを示しているため接続法過去形になっています。

- (1) *Me gustaría que llevases a cabo tu propósito de estudiar japonés.* // 私は君が日本語を学ぶという目的を達成してもらいたいと思う。
- (2) *Desearía que me enseñase usted trajes de invierno.* // 冬服を見せていただきたいのですが。
- (3) *No es cierto que Carlos dijera tal cosa.* // カルロスがそんなことを言ったというのは本当ではない。

## ■ 9 条件文

1) 直説法の条件文: 現実的なことを想定します。

- *Si no viene Juan, voy sola.* // もしフアンが来なければ、私は一人で行く。

2) 接続法過去の条件文: 現実的でないことを仮想します。帰結節には過去未来形を使います。

- *Si fueras profesor, ¿cómo enseñarías?* // 君が先生だったらどんなふうに教える？

3) 接続法過去完了の条件文: 過去に実現しなかったことを仮想します。帰結節には過去未来完了、または接続法過去完了を使います。

- *Si hubieras estado ahí, te habría invitado a comer.* // 君がそこにいたのなら、食事に誘ったのに。

## ■ 10 願望文

### 6. 願望文

1) ¡Ojalá que + 接続法現在:実現の可能性があるときに使います。

- ¡Ojalá que **tengas suerte!** // 君に幸運があるように！

2) ¡Ojalá que +接続法過去:実現の可能性があまりないときに使います。

- ¡Ojalá que el profesor **pusiera** unas preguntas fáciles! // 先生が簡単な質問をしてくれますように！

## スペイン語の質問

**\* 直説法の点過去, 線過去, 過去未来に対応する Creí que llegaba / llego / llegaría él. → No creí que llegara él.なのですが, なぜ直説法の肯定形の時は 3 通りある過去形 (線過去と, 点過去では直説法の時に使われ方もニュアンスも違うのに) が接続法になると, 一通りになってしまうのですか?**

→直説法には 3 種類の過去があるのに, 接続法では 1 種類の過去しかないためです。それでは, なぜ接続法が 1 種類だけなのかは次の事情によります。直説法の未来と過去未来は話者の推量を示すのですが, 接続法は主観的な評価の内容になるので, それとぶつかります。そのためだと思いますが, 古いスペイン語の形には「接続法未来」があったのに, 今では使われなくなりました。また点過去は, 特殊な過去形で動詞の体系全体から見ると外れています。「終わったこと」として別扱いされるのです。そこで接続法過去は体系的には直説法線過去に対応します。実際には直説法過去未来と点過去も含めることになります。

**\* 接続法の se 形と ra 形は, どちらかが使えない場合があると聞いたのですが, これはどういうことですか? また, 接続法の se 形と ra 形はどのように使い分ければよいのですか?**

→ra 形は一般的な接続法過去の使い方の他に, 直説法過去完了と同じ意味で使われたり, また非現実的条件文の帰結節で過去未来形の代わ

りに使われることもあります。たとえば次の例を見てください。Después de que los Reyes Catolicos le dieran el financiamiento Colón partió desde el puerto de Palo. (カトリック両王が資金を提供すると、コロンブスはパロの港から出港した。) / Si yo fuera rico, no trabajara como profesor. (私が金持ちならば教師の仕事などしないのだが…。

## スペイン語の理由

**接続法過去に ra 形と se 形の 2 種類がある理由がわかりません。どういう由来なのか教えてください。**

→se 形はラテン語の接続法過去完了に由来します。一方、ra 形は直説法過去完了からできた形です。スペイン語の早期から直説法過去完了は「haber の過去形+過去分詞」で表現されたので、ra 形が直説法過去完了としては徐々に使われなくなり、その代わりに 15 世紀頃に接続法過去として使われるようになり、その結果、現代スペイン語で ra 形と se 形が競合する結果になりました。なお、ra 形は現在でも少し古い文体で（とくにラテンアメリカで）直説法過去完了の意味で使われているのを見ることがあります。

**\*なぜ非現実の条件文では、現在のことを想像しているのに（接続法の）過去形が使われるのですか？**

→一般に過去形が条件文で使われると「…だったら」という意味で（現在形よりも）現実性がなくなります。日本語の非現実仮定文でもたとえば、「私が金持ちだったら（仕事などしないのに…）」などと言います。このことは願望文でも同じです。cf.日本語「…だったらよいのになあ」